

# Q1

## 今回、福島県沖で発生した理由・原因・メカニズムは？

2011年東北沖地震（東北地方太平洋沖）の余震と考えられ、2011年の地震時およびその後の地殻変動による歪エネルギーの蓄積が原因であると考えられます。今回の地震が発生した場所では、概ね東西方向に伸びる形の歪が生じていたため、正断層型の地震が発生したと考えています。

（災害リスク研究部門 今村文彦教授）

東北沖地震による突然の地殻変動で、福島県浜通りから常磐沖にかけて地盤が東西に引っ張られました。その影響で「正断層」型の地震が頻発しています（3.11前は、地面が圧縮されたときに起こる「逆断層」が主体でした）。東北沖の1ヵ月後にいわき市を襲った直下型地震（M7.0）はその典型です。その地震は、井戸沢断層、湯ノ岳断層という活断層の動きが誘発されて起こりました。地震を起こした断層が地表に露出し、約2mものズレが観察されました。今回の地震も同じ活断層型の浅い地震ですが、違いは深さ200m程度の海底下でズレが発生したことです。そのため海水を変動させて津波が発生しました。規模は熊本地震とほぼ同じくらいです。熊本地震（布田川―日奈久断層）が福島沖で発生したようなものと考えてください。ただし、熊本地震は横ずれで、今回の地震は上下のズレを伴ったため、海底で大きな変動が発生し津波につながりました。

（災害理学研究部門 遠田晋次教授）